

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)

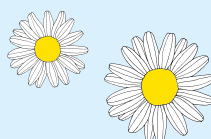


Contents

特集

- ①活躍する学生・生徒たち … 2～3
- ②小学部 各種発表会 … 4～5
- ③中学部・高等部 白木祭 … 6～7

- 学園各部報告 … 8～11
- 同窓会だより／マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

SAVINGS NEWS

特集1

活躍する学生・生徒たち

【生活デザイン学科】

「第16回ACジャパン広告学生賞」
1名グランプリ、1名審査員特別賞

「第16回ACジャパン広告学生賞」に、生活デザイン学科の学生2名が制作した公共広告が入賞しました。今年には全国の美術大学や一般大学から、過去最高の



坂上華梨さんのグランプリ作品



渡部千春さんの審査員特別賞作品

応募総数497点の作品が集まりました。その中から一次・二次・最終選考と審議が繰り広げられ、厳正な選考の結果、生活デザイン学科4年生の坂上華梨さんがグランプリを受賞しました。同時に、4年生の渡部千春さんが審査員特別賞を受賞し、本学の学生がダブルで受賞しました。またグランプリ受賞作品は、AＣジャパンの広告として、朝日新聞など全国5紙で全面広告のサイズで掲載されました。

この「ACジャパン広告学生賞」は、若い世代が広告制作を通して公共広告への理解を深め、「公」への意識を育むことを目的に2005年に設立されました。学生ならではの自由な視点や発想が選考のポイントとなっているもので、坂上さんのグランプリ作品は、18才からの選挙権をテーマに制作し、「緩いイラストレーションとキャッチーなコピーが新鮮だ」と評価されました。渡部さんの審査員特別賞作品は、ヘアドネーションの社会への啓発広告で、自らモデルになった美容室の写真が不思議な空気を表現しています。どちらも、広告のプロフェッショナルが認める、完成度の高い広告作品になりました。指導した北谷しげひさ教授からも「本当に心から嬉しい受賞でした。」とのコメントがありました。



「英語文化コミュニケーション学科」
「若者を考えるつどい2020」奨励賞、
「第24回身近なヒント発明展」奨励賞・努力賞

一般社団法人日本勤労青少年団体協議会主催「若者を考えるつどい2020」において、英語文化コミュニケーション学科の坂口絵梨さんが「コロナを機に叶えたい夢」というタイトルで奨励賞を受賞しました。また、一般財団法人発明学会主催「第24回身近なヒント発明展」において、同じく英語文化コミュニケーション学科の川口朋香さん、平田莉香子さん、福屋亜美さんのチームが3つのアイデアを提出し「常にcleanなPush out ブラシ」で奨励賞を、『2個持ちなんてさせない！3変化エコバット』と『小物や衣類を埃から守る3SBOX(Something・Soft・Snazzy)』の努力賞を受賞しました。

受賞した学生たちは、いずれも小泉京美教授のゼミ生です。指導した小泉教授からは「今回の受賞は『挑戦を通じて人は育つ』という本ゼミの方針を具現化してくれたものでした。コロナ禍で、例年参加してきた様々なコンテストが中止となり、学生がチャレンジできる貴重な機会が失われましたが、新たに参加可能なコンテストを探し、各学生の独創性や強みを活かし、エッセイ、商品アイデア、ポスター制作など異なる分野に挑戦しました。初めてのオンライン対応で、学生同士のチーム作りやコミュニケーション不足などに悩んでいましたが、4年生の厳しい指導と『通い合宿』などの工夫で困難を乗り越え、新たな領域にチャレンジし、3年生、4年生ともに成長が実感でき成果を出す事に繋がりました。」とのコメントがありました。



「第24回 身近なヒント発明展」奨励賞、努力賞
川口朋香さん、平田莉香子さん、福屋亜美さん



「若者を考えるつらい2020」奨励賞 坂口絵梨さん





〔中学部〕
バスケットボール部 神奈川県
U15バスケットボール選手権準優勝

中学部バスケットボール部では、本年度目標にしていた夏の総体がなくなり、生徒たちにとって辛い1年となりましたが、9月22日(火)から神奈川県U15バスケットボール選手権が開催され、本校は10月18日(日)の最終日まで順調に勝ち進みました。最終日の準決勝では50対43でクラブチームGratusに勝利しましたが、クラブチームYokohama Fiestaとの決勝戦では36対47で惜しくも準優勝という結果になりました。

優勝チームは1月にある全国大会に出場できただけに残念な結果ともいえますが、休校期間中にそれぞれの選手たちが計画を立て、努力して掴んだ結果に胸を張りたいと思います。



県U15
選手権大会
表彰



県U15選手権大会 集合写真

また、相模原市最優秀選手にオ克蘭咲樹アマさん、西山莉子さん、優秀選手に柏四季さん、成田和杏さん、モハメドアミナトゥ美早希さんが選ばれました。さらに、11月に行われた新チーム(1、2年生)の相模原市秋季大会では、10年連続13回目の優勝を果たし、新

チームとしても好スタートを切ることができました。その後予定されていた2連覇のなかった県大会は残念ながら中止になってしまいました。3年生の思いを引き継いで進んでいきます。

(田島)



相模原市最優秀・優秀選手に4名が選ばれました



相模原市秋季大会 表彰

〔中学部〕
全国新聞協会主催
「みんなで読もう!新聞コンクール」
中学部2年生が全国で奨励賞受賞

2018年度より、中学部・高等部は、NIE (Newspaper in Education) の実践指定校に認定されています。NIEとは、新聞を教材として活用する取り組みのことで、新聞に親しみながら、読解力の向上や新聞を通して社会に目を向ける姿勢の育成を目指すものです。その一環として、全国新聞協会が主催する「みんなで読もう!新聞コンクール」に応募しました。

中学部1、2年生では、「新聞を開いて、新聞には何を書かれているのかを探ろう」という取り組みから始め、興味を抱いた記事に対する自分の考えを言葉にしました。そこから、さらに家族や友達の意見をもたらしながら、自分の考えを深めてまとめていきました。応募を重ねて3年目になりますが、今年度は、神奈川県審査で高等部1名、中学部5名が入賞しました。さらに、全国の審査では中学部2年生の鎌田佳世さんが奨励賞を、中学部が学校奨励賞をいただきました。鎌田さんは入賞に対して驚きながらも、「自

分の考えを周囲と共有したことで表現がしやすくなった。今後も様々なことに積極的に取り組みたい」と語っていました。

(堤)

〔高等部〕
陸上競技部
関東新人選手権大会出場

2020年10月24日(土)、正田醤油スタジアム群馬(群馬県立敷島公園陸上競技場)で行われた第24回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会に、高等部2年生の杉山未佳さんがやり投で出場しました。

本年度はコロナ禍においても意識を高く保ち、全力で競技に打ち込んできた結果、9月の神奈川県新人大会で見事優勝を果たし、県チャンピオンとして挑んだ関東大会でしたが、思ったような結果は出せず、非常に悔しい思いで大会を終えました。

初の関東大会というこの大変貴重な経験を糧に、来年度の全国大会を目指して冬季練習に励んで参ります。

日頃より練習環境を整え、ご支援ご声援くださいます皆様には本当に感謝しております。今後とも練習できることに感謝しつつ邁進します。

(鈴木)



神奈川県新人大会 優勝時の杉山未佳さん



特集2 小学部 各種発表会

コロナ禍の中でも子どもたちのパワーにエネルギーをもらって

コロナ禍の中、小学部では、取り組み方に注意し、会場や参観者の人数を工夫して学校行事を行いました。子どもたちにとって学校行事の教育効果はとても大きいものです。目標を持って取り組むことの大切さ、文化に触れることの楽しさ、友だちと協力することの素晴らしさなどを学びます。

相生祭の中止はありましたが、1年生と5年生のクラスごとの劇発表(3年生は3学期)や、2年生や4年生の音楽発表、保護者の皆さんからの要望が強かった5、6年生男子による剣舞、そして、例年通りのEnglish Speech Contestを行うことができました。

英語以外の学習活動を生かした
英語のスピーチに

— 全校 English Speech Contest —

12月3日(木)、相模女子大学グリーンホールにて、第7回全校 English Speech Contest が開催されました。スピーチコンテストには2年生から出場することが出来ます。各学年の代表を決める予選が11月



第7回 全校 English Speech Contest

中に行われ、この日は、各学年の代表の生徒が発表を行いました。

子どもたちはこの日のステージに出ることを目標に頑張ってきました。ですから、代表に選ばれた子は、クラスの友だちの応援も受けて、一生懸命に頑張ります。

スピーチの題材は、他の教科で学んだことを元に組み立てられます。例えば、4年生では社会科の都道府県調べについて、5年生では、SDGsの問題解決のロボット(プログラミング学習で作成)の紹介といった総合的な内容になっています。また、高学年では、iPadを利用して作成したプレゼンテーションのスライドも見所です。

毎年のことながら、子どもたちの発音の良さや広いステージで物怖じせずに堂々と発表する姿には、感心させられるばかりです。

今年度も、ご来賓のみなさまに選考していただき、各学年から1名ずつ、特別賞が与えられました。

来年度以降は、より多くの児童がステージに登壇できるような英語学習の成果発表の場に、この行事をレベルアップできたらと考えています。

各学年代表のスピーチの様子



3年「物語『スイミー』の暗唱とすきな場面」



2年「自分のすきなもの」



6年「My Dream」



5年「SDGsの課題とその解決のためのロボット」



4年「都道府県のPR (社会科の学習を生かして)」

今年の音楽発表会は器楽演奏を中心に
— 2、4年生 音楽発表会 —

全校 English Speech Contest を行った日の午後は、同じく相模女子大学グリーンホールにて、2年生と4年生の音楽発表会を行いました。従来ならば、相生祭で発表する音楽発表ですが、広いステージの利用と器楽演奏を中心とした発表に切り替えて行われました。

2年生は「日本のまつりを楽しもう」と題して、和太鼓を中心にした童謡『村まつり』の合奏と数人の独唱、そして、自分たちで考えた和のリズムの紹介をする発表でした。法被姿の子どもたちが、和太鼓を演奏したり、阿波踊りをする姿は、コロナ禍の中で失われた祭りの楽しさを感じさせてくれるものでした。

4年生は合奏「ライオン・キング メドレー」です。3組の「ハクナ・マタタ」でスタートし、2組が「王様になるのが待ちきれない」、1組が「愛を感じて」を演奏。

そして、最後は4年生全クラスで『サークル・オブ・ラブ』の演奏と、お馴染みの曲が続きます。様々な楽器で演奏を合わせることは、とても難しいチャレンジでしたが、子どもたちは楽譜と、児童のJTBに配信された音楽を併せて聴き取りながら、練習に取り組み、立派な演奏を聴かせてくれました。

(澄井)



2年3組 日本のお祭りを楽しもう



2年2組 日本のお祭りを楽しもう



2年1組 日本のお祭りを楽しもう



4年3組 『ハクナ・マタタ』



4年2組 『王様になるのが待ちきれない』



4年1組 『愛を感じて』



1年3組 「やくそく」



1年2組 「おおきなかぶのそのあとに」



1年1組 「やさいばたけは、おおさわぎ」



5年3組 昔話法廷「ごんぎつね」



5年2組 昔話法廷「オオカミと七匹のこやぎ」



5年1組 昔話法廷「うさぎとかめ」

小学部では、表現力の育成を目指して、劇発表を国語のカリキュラムに位置づけています。今年度は学年ごとに日にちを決めて、保護者1名の参観という形で行いました。

役になりきって頑張る子どもたち
—1、5年生 劇発表会—



剣舞 「川中島」 一剣を磨く



剣舞 「川中島」 長蛇を逸す

11月30日(月)、5、6年男子有志による剣舞発表がありました。例年ならば、5月の運動会に合わせての練習となりますが、受験が近づいてくる11月に、6年生男子が果たして剣舞に取り組めるのだろうか、と考えていました。けれども、最終学年でも、ぜひ剣舞にチャレンジしたいという児童が多く、5年生もたくさん参加しての実施となりました。上級生から受け継いできた魂を立派に引き継いで、凛々しい姿を見せてくれました。

(澄井)

受験期であってもがんばりたい
—5、6年生男子有志による剣舞—

5年生は、3クラス全てがNHK for schoolの番組「昔話法廷」を元に舞台化した劇を上演しました。クラスによって取り上げた昔話が違います。1組は「うさぎとかめ」、2組は「オオカミと七匹のこやぎ」、3組は「ごんぎつね」を題材にしています。子どもたちのアイデアで脚本が作られ、原告側、被告側のそれぞれが示す証人や証拠を元に、観客に有罪か無罪かを決めてもらうというものでした。さすが5年生で、台詞以外の動きも工夫していて、しっかりとした演技でした。

練習ではマスク、本番ではマウスシールドの着用という体制で臨みました。

1年生の劇は、1組が「やさいばたけは、おおさわぎ」、2組が「おおきなかぶのそのあとに」、3組が「やくそく」です。1年生にとっては、初めての劇でしたが、どのクラスも工夫された踊りと元気な台詞で楽しませてくれました。

特集3

中学部・高等部 白木祭

中止となった相生祭の代替案を実施するため、高等部では総勢22名の有志の実行委員会が立ち上がりました。オンライン文化祭『白木祭』のHPが1月20日(水)に公開され、1月27日(水)には第1回生配信が花火打ち上げとともに行われました。

- 動画公開期間 1月20日(水)～2月28日(日)
- 第1回生配信 1月27日(水)
- 第2回生配信 2月23日(火)

コロナに青春を奪わせない!

白木祭実行委員長
高等部2年 大滝 理央



新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により様々な行事が中止となってしまった中、たった一度の学校生活をこのままでは終わらせたくない!という気持ちからこの白木祭を企画しました。

オンライン文化祭は初めての事で、上手に行くのかとても不安でしたし、実行委員会や、先生方、地域の方々と話し合いを重ねて活動していても、うまくいかないことがたくさんありました。

この活動を通じて、少しでも地域の方に何か還元することができればと思ってきましたが、地域の方々の協力なくして、このような大きな活動にすることは出来ませんでした。商店街の方々は時に厳しく、時に優しく、この活動を支えてくださいました。チラシへの掲載や、CM撮影の依頼も快く受け入れてくださり、本当に感謝しています。

クラウドファンディングにもたくさんの方が協力して下さいました。まさかここまで多くの方が相模女子大学中学部・高等部を応援して下さいましたとは、驚きと感謝の気持ちでいっぱい입니다。おかげでとて

も素敵な花火を打ち上げる事が出来ました。花火が打ち上った瞬間の喜びは忘れられません。

生徒の中には「白木祭ってやる必要あるの?」「白木祭って何やってるかわからないよね?」という言葉も少なからずありました。しかし、動画を楽しんでくれている人たちが打ち上がった花火に感動してくれた人の姿を見て、自分たちの活動は間違っていないかと確信することも出来ました。何よりもこの活動を通じて自分自身が充実した学校生活を送ることが出来ました。

関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

できないことはない!

白木祭副実行委員長
高等部2年 タツカ 彩



皆様こんにちは!生配信された白木祭はご覧になられましたでしょうか?
新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な制



白木祭実行委員



実行委員会制作パーカー



限がある状況下で、白木祭は想像以上に完成度の高い仕上がりとなりとても嬉しく思っています。

クラウドファンディングを利用して自分たちで資金調達から行った花火は、本当に大きくて華やかで、今までになく感動するものでした。白木祭を通じて出来ないことに悲観するのではなく、できることに目を向けて活動することの大切さを学ぶことが出来ました。全ての企画に関わって下さった全ての方々への感謝は言葉では言い尽くせません。ありがとうございました!

初のオンライン文化祭!
白木祭第1回生配信当日!

白木祭実行委員1年代表
高等部1年 池田 天奏



1月27日(水)に白木祭第1回生配信を行いました。降水確率は90%と、不安を抱えた中で本番がスタート。学園連携企画や部活動発表のほか、相模大野商店街の方々・竹下先生へのインタビューなど沢山の企画があり、盛況を呈する配信となりました。

一時雨が降ることもありましたが、17時30分から、無事花火を打ち上げることが出来ました。準備期間が長かった分、涙を浮かべている実行委員もいまし



司会にチャレンジ!



チアリーディング部の発表

た。配信時は司会を行っていましたが、アドリブが多く、少し大変でしたが(笑)とても楽しかったです。1500人以上の方に視聴していただき、想像を超える盛り上がりでした。

今回の配信で皆様に少しでも笑顔をお届け出来ていたら幸いです。

初のクラウドファンディング挑戦

白木祭実行委員1年副代表
高等部1年 田島 愛里

クラウドファンディングで花火打ち上げのための資金を集めるという話が挙がったのは昨年7月のことです。最初は、自分たちに挑戦することができの半信半疑でしたが、プロジェクトページが完成に近づくとともに「本当にチャレンジするんだ」と、実感が湧いてきたのを覚えています。

プロジェクトが立ち上がるまでの約4ヶ月間は様々な困難があり、焦りや不安を感じた日々もありました。

しかし、いざプロジェクトが立ち上がると、なんと約1週間で目標金額である60万円を達成。ネクストゴールの100万円にも挑戦することができました。そして、1ヶ月間のチャレンジを無事に終え、132名の方から107万4千円もの支援をいただくことができました。私達の活動がこんなにも多くの方に支えられ、応援されていることを改めて感じ、白木祭の成功に向けて決意を新たにしました。



私たちの思いをのせて
大空に打ちあがった花火



楽しい行事ばかりが 消えていく高校一年目

第1回生配信舞台監督
高等部1年 高山 澤

生配信にご協力頂いた方々及びご視聴くださった方々、ありがとうございました。第1回生配信の当日



に舞台監督を務めさせていただいておりましたが、経験したこともないことの連続で心臓が飛び出るかと思いつながり一杯やらせていただきました。当日は最終確認をする時間を取りながらやっていたはずが、事前トラブルが相次ぐ中でスタートでした。司会の二人が進むにつれて慣れてきたのかアドリブ対応をしてくださったので何とか大きな問題も起きずに終わることができ、大変ホッとしました。第1回生配信の目玉であった花火の打ち上げの前に花火師さんとインカムでやり取りをさせていただいた時が一番緊張しました。皆さんのカウントに合わせてお願いし、無事打ちあがった時の感動は忘れられません。

打ちあがった時の室内組の花火観覧ができる場所への飛び出しも忘れられません。

改めて、関係者各位及び視聴者の方々に最大限のお礼を申し上げます。また、花火のみの動画が上がっております他、ホームページも手掛けさせていただいております。そちらも是非ご覧頂けましたら幸いです。

コロナ禍の文化祭にみた、 人と人の繋がりの温かさ

第1回生配信タイムキーパー
高等部1年 石川 優子

今回配信された生放送は色々な人のお陰で成り立っています。私がVTRの用意でミスをしてしまい予定していたCMが流れなくなってしまう時も、VTR出し担当、舞台監督、MC、業者の方などが自分のミスを埋めてくれて、何とか生放送を続行することができました。コロナ禍で人と触れ合う機会が極端に減ったこの時期であったからこそ、このような人と人のつながりに自分が助けられていることを改めて知ることが出来ました。

正直に言うと、準備をしている時はその仕事量の多さに辛さを感じる事の方が多かったです。しかし、花火を



第1回生配信の様子



見た時や生放送のコメント欄に温かい言葉を頂いた時、この活動が多くの人に応援されている事に誇りを感じ、実行委員をやつて良かったと心から思うことが出来ました。

コロナ禍の青春がこんなにも楽しいものになるとは思ってもみませんでした。この経験を生かし、来年にはさらに素敵な相生祭が開催できることを願っています。



生配信中のスタッフは大忙し

「白木祭実行委員会」の活躍

中学部・高等部 校長
原野 聡美



1月27日(水)の夕刻、相模女子大学の上空に花火が打ち上げられました。「学校を、そして地域を元気づけよう!」の思いが形となった一コマでした。

コロナ禍で相生祭を含む数々の行事が中止に追い込まれるなか、高等部生2名の発案から始まったのが、中学部・高等部オンライン文化祭「白木祭」です。「学校が何をしてくれるかではなく、自分たちが地域や学校に何ができるか考えたい。」

この思いに共鳴した有志20名により組織された「白木祭実行委員会」は、中学部・高等部の生徒たちへの参加の呼び掛けだけでなく、思いを伝え、クーポン券による協力も頂けました。そして初めて挑戦したのが、クラウドファンディングです。目標金額に届くかどうか不安な中で始まったこの取り組みも、地域の皆様や学校関係者からの強力な支援のおかげで成功し、夜空を彩る花火となって、私たちに元気を与えてくれたのでした。

あらためて、実行委員の皆さんの意志の力と行動力と努力に敬意を表するとともに、中学部・高等部の生徒たちにはこれからも、楽しみながら、そして失敗を重ねながら、様々なことに挑戦して、いってほしいと思っています。

学園各部 報告

大学・短期大学部

第10回さがみ発想コンテストが開催されました

10回目となるさがみ発想コンテストは、新型コロナウイルスの感染拡大をプラスのきっかけとして、「どのような生活が豊かになるか」という視点から、「発想×コロナ×新型コロナウイルスを糧としたよりよい生活とは」というテーマでアイデアを募集し、18件の応募がありました。前回までは、書類による一次審査を行った上で、一次審査を通過された方に最終審査会でプレゼンテーションを行っていましたが、今回は、コロナ禍により、完全オンラインでプレゼンテーションと審査を行うことになり、応募者から動画を提出してもらいました。

大学ブランディング推進委員会による一次審査の結果、6名が最終審査に進み、プレゼンテーション動画を学生及び教職員に限定公開する形で、投票が行われました。投票の結果、最も得票数の多かった英語文化コミュニケーション学科3年生の藤間彩衣さんの提案『Cooking & Health Support Application - Cooker』がグランプリに選ばれました。

WEB会議システム「Zoom」を利用した就職支援について

就職支援課では、大学3年生および短期大学部1年生を対象とした秋学期就職準備講座を、9月から12月までの毎週木曜日に実施しました。

コロナ禍で全てWEB会議システム「Zoom」を利用して実施し、「企業の採用動向について」、「就活メイク」、「自己分析（復習）」、「履歴書・エントリーシートの書き方」、「オンラインインターンシップ」、「内定者の就活体験」、「面接対策対面・WEB」、「OGからの就活アドバイス」、「UIJターン（※）説明会」、「業界・企業研究」など、就職活動に実際に役立つ講座を行いました。

また11月より、企業の採用担当者から業界の特徴や企業の魅力についてお話しいただく「お仕事研究会」を行いました。こちらについても全て「Zoom」で実施し、学生たちは自宅からスーツを着用しての参加となりました。

今後は、初の試みとなるオンデマンド配信での「お仕事研究会」も実施します。こちらについても、多くの学生に参加してもらいたいと考えています。

（※Uターン・Jターン、Jターンの総称）
Uターン：地方で生まれ育った人が都市部の学校に進学し、卒業後に故郷に戻って就職すること
Jターン：都市部に生まれ育った人が、地方に移住して就職すること
Jターン：進学や就職で地方から都市に移住した後、生まれ育った地域に近い地方都市に移住して就職すること

ノジマステラ神奈川相模原で、学生がデザインしたグッズが商品化されました

ノジマステラ神奈川相模原との連携活動の一環で、チームが販売するグッズのデ

ザインコンテストを開催し、健康栄養学科3年生・岡本彩葉さんの作品が採用され、商品化されました。

コンテストは、「家族みんなので使えるエコバッグ」をテーマとしてデザインを募集し、20名の学生から応募がありました。採用された作品は、試合会場と株式会社ノジマオンラインショップ



学生のデザインが採用されたエコバッグ



収納することができるので持ち運びにも便利です

「Nojima Online」にて、2020年11月から商品として販売されています。

相模原市に拠点を置く女子サッカーチーム・ノジマステラ神奈川相模原と本学は、2013年にパートナーシップ協定を締結し、サッカーの試合運営ボランティアとして年間を通して学生派遣を行うなど、連携を強化しています。

学生が架け橋となって、自宅でクリスマスを通じ子どもたちへ本を贈るプロジェクトを行っています

サンタプロジェクト・さがみはらでは、自宅でクリスマスを通じ子どもたちに本を贈る活動を行っています。コロナ禍でプロジェクトの中止も検討されましたが、ある学生の「こういう時だからこそやりたい」という声でみなが一致団結して、

それぞれの得意分野を活かしてカード作り等の準備をすすめました。今年はいくまざわ書店相模大野店、三省堂書店海老名店の協力のもと、地域のサンタさんが「その子」へ向けて選んで購入された本を、市内の児童ホームへ77冊もお届けしています。例年のように直接届けられず郵送となりましたが、制約の中でも人を想う気持ちが見える活動となりましたこと、ご報告いたします。



リピーターのサンタさんもいるそうです



市民サンタさんが「その子」のために購入



子どもたちが喜んでくれるかなとワクワク

中学部・高等部

Hello! from Asia
—アジア架け橋生2名を迎えています—

高等部では12月から2名のアジア架け橋生を迎えました。パキスタンから来た18歳のファティマ（ファタさん）と、モンゴルから来た16歳のエンヒジン（エンちゃん）です。3月までそれぞれ高校1年生のクラスで勉強しています。

日本語の学習を始めて半年余りのファタさんは、昨年の架け橋生、スリランカのサッチャンとSNSで連絡を取り合い、日本の学校生活を予習してきました。日本語の聞き取り能力も飛躍的に伸びています。パキスタンの学校にはクラブ活動がないため、体操部やバトントワリング部など、本校のクラブ活動を満喫しています。

一方のエンちゃんは、ウランバートルで育った都会っ子。9歳から「NARUTO」などのアニメを見て日本語を独学で習得した強者です。得意の英語の授業ではクラスメートをリードする存在となっています。また、初めての女子校生活は新鮮らしく、バスケットボール部やESS部の活動に熱心に取



新年の書初め（左/エンヒジン 右/ファティマ）



書道の授業にて

り組んでいます。

コロナ禍で4月からの留学予定が大幅に遅れ、学校行事を体験する機会も大幅に減ってしまいました。楽しみだった調理実習もなくなり、予定していた茶道体験も「エアカ道」にはなってしまいました。たが、たくさんさんの「経験」というお土産を持ち帰ってもらいたいと願っています。

（高等部・水谷）

心を揺さぶるショー、心が弾むショー

12月に行われたJAPANCUP 2020に、高等部と中学部のバトントワリング部が出場しました。

高等部のテーマは「Alice」。「苦しくても、私はまだ息をしている...」そんな強いメッセージが含まれるこの曲に決めたのは2020年2



苦しくても、私たちは負けません！



今年のチームを牽引してくれた高校3年生、ありがとう

曲を目指し、力強くしぶといチームの底力を見せ、歴代最高位と並ぶ第5位に入賞を果たしました。

「とにかく楽しんで！」と送り出した中学部のテーマは「Fancy Cat」。オシャレで気まぐれで楽しいネコ。どこにいてもすぐにわかる2つのお団子ヘアが選手たちの気持ちを盛り上げ、保護者や高校生の大きな拍手がエネルギーを与えてくれました。誰もが安心感を持って作品を「楽しむ」ことができたのは、休憩時間を惜しんで練習を重ねた生徒たちのひたむきさのおかげです。歴代最高位の第2位となったこと以上に、「楽しかった」という評価を多数いただいたことを嬉しく思います。

いつの間にか、

力強く、しぶといエンターテインメント集団となっていたバトントワリング部を引き続き見守っていきたいです。

（高等部・對馬）



ネコになりきって走り回ります！

吹奏楽部が県立相模原高校と

ジョイントコンサートを開催

中・高等部吹奏楽部は、12月27日（日）に、相模女子大学グリーンホールにて3回目となる県立相模原高校とのジョイントコンサートを開催しました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、一部客席エリアを定員の50%に制限したり、入場券申し込みサイトを事前に閉鎖したりと、さまざまな対策を



本番の終了直後に両校部員で

講じた上で、何とか開催に漕ぎ着けることができました。本来は、一人でも多くの方に来場して頂きたいところでしたので、残念でなりません。しかしながら、そのようなマイナス面を感じさせない、部員たちの頑張りや光った演奏会となりました。両校はともに、昨年の定期演奏会が中止となり、お客様を迎えて演奏できる機会は、実に一年ぶりでした。直前まで心配の種は尽きませんでしたが、直接演奏を聴いて頂ける喜びが溢れた、充実度の高いコンサートとなりました。I部、II部では各校がそれぞれの特色を大いに発揮し、III部では総勢110名がダイナミックな演奏を繰り広げました。来場者アンケートには、生演奏を耳にできた感動が多く寄せられました。

今振り返ると、ぎりぎりのタイミングでの開催だったかもしれないが、実り豊かな経験ができたことをうれしく思います。開催を支えて頂いた皆様に、篤く御礼申し上げます。（高等部・近藤）

小学部

つなぐ手(伝統文化体験)「落語に親しむ」

11月24日(火)に、3年生と4年生のつなぐ手の授業の一環で、「落語に親しむ」と題した、伝統文化体験授業がありました。

講師として、落語家の桂 伸衛門(かつら しんえもん)さんと、お囃子の成田みち子さんをお招きしました。3年生の時にも桂さんの落語を聴いていた4年生は、特に、朝から楽しみにしていました。

「あれ?先生、去年は名前が伸三(しんざ)さんだったよ。」と子どもたち。桂さんは、今年の5月に真打に昇進されて、「伸衛門さん」に改名されました。桂さんから、落語の世界には「前座」(4〜5年)、「二ツ目」(約10年)、「真打」という階級があることを聞いて、子どもたちは驚いていました。桂さんは、前座「春雨 雷太さん」の時代から毎年小学部のつなぐ手の授業をして下さっています。

4年生の授業では、桂さんは、最初に長襦袢姿でいらして、子どもたちの目の前で着物を着て帯を締め、羽織をはおって下さいました。そして、小道具の手ぬぐいや扇子を用いながら、芸を見せて下さいました。

桂先生の演技によって、手ぬぐいがお皿に見えたり、お財布に見えたり、本に見えたり、あつあつの焼き芋に見えたりします。また扇子は、お箸に見えたり、刀に見えたりします。舞台には桂さんお一人なのに、顔を向ける方向や視線を変えただけで、何人のも役を演じ分けたりします。子どもたちは、一気に桂さんの作り出す落語の世界に引き込まれていました。

続いて、寄席太鼓の「追い出し太鼓」を紹介して下さいました。「追い出し太鼓」

は「出てけ、出てけ」テンテンバラバラとお客さんが様々な方向に帰る様子を表した言葉の語呂に合わせたリズムで叩くそうです。次に、お囃子の成田さんの三味線の演奏にあわせて、「和太鼓」「締太鼓」を演奏して下さい、そのあと、実際に子どもたちに叩かせて下さいました。

桂さんは、落語の「猿のお話」「もと犬」ときそば」という小話を話して下さい、子どもたちは、マスクをしながらでしたが、お腹をかかえて大爆笑、大きな拍手に包まれました。間近で本物の落語を聞く貴重な体験をすることができました。

(小勝)



落語家 桂伸衛門さんに学年代表が挨拶

スクールバディとの交流を児童が企画(全校つなぐ手)

つなぐ手タイムを利用して、今年度初めて、全校一斉のスクールバディ活動が行われました。小学部では「スクールバディ」と称した、上級生と下級生のペアがいます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一緒に昼食を食べたり、遊んだりすることができなかった今年のバディ活動。そのような中で、児童代表委員会の子どもたちが、非接触型のゲームを考え、「糸電話クイズ大会」を実施することができました。

上級生が下級生を迎えに行き、上級生が事前に作っておいた糸電話を使って、クイズ大会のスタートです。iPadに配信されたクイズを上級生が下級生に出題します。

「よく聞こえない!」「もう一回言つて!」普段なら簡単に答えられるような問題も、糸電話を通すと、聞き取るのが難しくなります。それでも、慣れてくるにつれ、「わかった!」「正解!」と、クイズに正解している様子が見られました。短い時間ではありましたが、初めてのバディ活動をとても楽しんで見られました。

素晴らしいアイデアを考えたくれた児童会指導部の子どもたちにも感謝です。

(澄井)



「1年生聞こえる?じゃあ、問題ね」

オンラインで自動車工場見学(5年生)

5年生は社会科で自動車工業についてを勉強をします。本来ならば、実際の自動車工場を見学するのですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で工場見学を実施している会社がほとんどありません。そこで、今回は日産自動車九州さんにオンラインでの自動車工場見学をお願いしました。

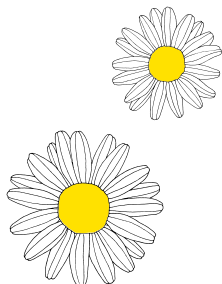
自動車はどうやって作られるのか、これからの自動車はどうなっていくのかなど動画とお話で説明してくださいました。

質問コーナーでは、子どもたちが事前に勉強した内容の中から質問したいことを尋ねました。丁寧に答えてくださいましたが、中には「企業秘密なのでどうしても知れたかったら日産に就職してください!」とお誘いを受けている人もいました。

普段は、「両手で大きな〇を作つて」なんて言われても、「そんなのやだ!」と恥ずかしがっている年頃の5年生。ところが、電子黒板に映る優しいお姉さんと言われると、素直に全員が指示に従う、というなんとも不思議なオンラインバワーを感じました。

工場見学をするともらえる特別仕様のNISSANリーフミニカーが事前に小学部に送られていて、子どもたちにプレゼントされました。実は、50台に1台の当たりがあります。当たりは、車体の色が違い、特別に電池などが付いており、付属の家に駐車させると電気がつきます。大当たりの子は、みんなにうらやましがられていました。休み時間には、もらったミニカーをみんなで走らせ、なんだかとても楽しそうでした。

(鬼頭)



オンライン見学 みんなで○



5年生がオンラインで日産自動車見学



みんな素敵なものを作っているんだね

11月28日(土)に作品展が開催されました。
子どもたちは、空き箱やスズランテープ、絵の具や紙粘土など、様々な気に入った素材を使いながら作品作りに励んでいました。友だちが絵の具を使っている姿を見て、「私も絵の具やりたい。」と興味を持ちたり、見たことのない空き箱を見つけると目を輝かせながら手に取ったり、意欲的に製作活動に取り組んでいました。製作活動に取り組む中で、自分のイメージしたものに近いものために悩む姿も多く見られましたが、子どもたちにしか考えられないようなひらめきと発想を活かして作品を作り上げていく姿に驚くばかりでした。
「早く作品展にならないかな。」「お父さんとお母さんが来てくれるんだよ。」と子どもたちは作品展の開催を楽しみにしており、作品展当日は、自分が作った作品を保護者の方にたくさん褒めてもらうととても嬉しそうにしていました。

(竹下)

個性溢れる作品展

認定こども園 幼稚園部

クリスマス会



紙粘土って柔らかいんだね!

12月17日(木)にクリスマス会を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策により、例年のような華やかな会ではありませんでした。子どもたちにも少しでもクリスマスの神聖な雰囲気やワクワク感を楽しんでもほしいと願い3密を避けた方法で行いました。
乳児クラスと年少組は各保育室、年中組と年長組はホールでクラスごとに集まり、いつもと少し違う雰囲気、子どもたちは何が起きるのか不安と期待が混ざったような様子でした。鈴の音が聞こえると一気に緊張感が高まりました。そして、サンタクロースが登場すると目を丸くして驚きと喜びの表情に変わりました。プレゼントを受け取ると、嬉しそうに保育者に見せたり、袋をじっと見つめたりする子どもたち。再び鈴の音が聞こえ別れの時間になると、子どもたちは一生懸命サンタクロースに手を振り、ありがとうの気持ちを伝える姿が見られました。



プレゼントは何か?



大きなサンタさんにドキドキ!!



サンタさんがお部屋に来てくれました!!

いつもは元気いっぱいの子どもたちですが、どのクラスも驚きすぎて声も出ない様子が見られ、その純粋な表情がとても可愛らしく印象的でした。今後も子どもたちの健康と安全に配慮しながら、園の行事を楽しめるよう工夫して保育していきたいと思っています。

(福田)



卒業 18 年後に思うこと スカラ奈緒子

(平成 15 年 学芸学部国文学科卒)



写真提供 MNSU Theater



写真提供 Wes Taylor

私は学芸学部国文学科を2003年に卒業しました。卒業してから2年後に渡米し、舞台美術とデザインを、カンザス州の大学とミネソタ州の大学院で学びました。その後、アメリカのサウスカロライナ州とアリゾナ州の劇場や大学などで働き、現在はアメリカ合衆国オハイオ州のThe College of Woosterという私立大学で助教授として働いています。

在学中、先生方には大変お世話になり、特に梅林博人先生には卒業論文制作にあたり、感謝しても仕切れないほどお世話になりました。私は特に模範的な学生というわけではなかったのですが、梅林先生が最後まで私のことを諦めず、叱咤激励をしてくださったおかげで、卒業論文を提出できたと言っても過言ではないと思います。アメリカと日本の学生には様々な違いはありますが、教える立場の人間の学生への姿勢、対応の仕方によって、学生の学業における向上心や熱意が影響されるということは同じように思います。今、私が働いている大学でも卒業論文の提出が必須で、指導する立場となった今、梅林先生を始め多くの先生方の苦労や真摯な姿勢を思い出し、改めて感謝の気持ちで一杯です。

舞台芸術は劇作家の意図や本意を汲み取って創り出す芸術で、特に舞台美術は作品の行間を読み取ることが必至となり、

言葉を使わずに視覚に訴える表現をすることが大切です。私がカンザスの大学に留学を始める前は、英語が本当に苦手でした。けれど私が相模女子大学に在学中は、日本の文学作品をどのように様々な方法で解釈、分析するのかをじっくりと学んだので、それが今の仕事でとても役に立っているように思います。

何かひとつでも、時間を忘れて夢中になるようなことがあれば、それを諦めずに続けられる方法を探すということが、何事においても良い方向へつながっていくのではないかと、アメリカで何人もの学生の進路相談に乗る度に思います。相模女子大学では、自分の興味のあることを研究する楽しさ、そしてどうすれば諦めずに続けられるかということを授業や課題、そして卒業論文を通して学ばせてもらいました。アメリカと日本の研究の仕方に多少の違いはあれど、論文や研究に取り組む姿勢や考え方などは、今でも、学んだことが活かしているように思います。

今、相模女子大学に在学中の方の中で、卒業後の進路に悩んでいる方がいらっしゃったら、何をしている時に時間を忘れて夢中になるのかを考えるとところから始め、それを諦めずに続けられる方法を考え始めると、意外な道が開けたりするかもしれません。

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。
ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。
今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和 2 年 3 月末現在	令和 2 年 12 月末現在
マーガレット募金額	47,702,061 円	53,902,407 円

マーガレット募金

募金内容

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。

用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

お申込方法 (個人の場合)

① お振込 (郵便局または銀行窓口) ② 郵送 (現金書留) またはご持参 ③ 自動振替での継続
詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただくか、下記事務局までお問い合わせください。

●マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-813-5030 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916